い著者の姿勢を表しているものと思う.

なお、せっかくなので申し添えれば、ツヤネクイハムシなどは美しい青色型がいるのだから、使い古した十円玉のような色彩の標本が並ぶページでこそ、彩りを添えて欲しかったし、むし社の撮影技術なのだから、展足も「非の打ちどころのない完璧なもの」で決めてほしかった。そして、海外でのとびっきりの採集品を著者にもったいぶって提供した身としては、産地と採集者名もぜひ入れて欲しかった。が、それらは後世の大多数の人

には関係のない、虫屋の趣味的な要望にすぎず、そうした余計なものをバッサリと捨てる気持ちが持てたからこそ、本書は洗練された作りになっているともいえる。虫屋の「余計な部分」からどこまでも離れられない私には、これからもただ箱に並べた標本を眺めて悦に入りながら、中堅となった同世代の友人らが世に送り始めたすぐれた仕事を机上に広げつつ、偉そうに他人の成果を評することぐらいしかできそうにない。

(永幡嘉之)



Jäch, M. A. and J. A. Díaz, 2012. Descriptions of six new species of *Hydraena* s. str. Kugelann from Japan (Coleoptera: Hydraenidae). Koleopterologische Rundschau, 82: 115–136.

日本産 Hydraena 属(ダルマガムシ科)は故佐藤正孝博士やウィーンの M. A. Jäch 博士らの研究によって 14 種が知られているが、上記論文によって Hydraena 亜属に属する 6 種が本土より新種として記載された: H. curvipes, H. hayashii, H. kamitei, H. kitayamai(以上が H. notsui group),H. kadowakii, H. tsushimaensis(以上が H. riparia group)。さらに,H. notsui(シコクダルマガムシ)が鳥取県と島根県から記録された(本州初記録).

H. notsui group は体長 1.4-2.0 mm の小型種で, H. riparia group は体長 2.1-2.5 mm でより大型である. いずれも山地の渓流や細流で採集されている流水性種である. 流水性 Hydraena 属は, 一般に生息密度が低く, 大量に採れることは少ない. これだけの新種が発見されたのは, 近年のヒメドロムシ・ブームの副産物とも言えるだろう. また, 流水性 Hydraena 属は日本列島の広い範囲で多くの種に分化しており, 日本産水生甲虫の中でも特異な存在である. さらに, 未記載種の発見も大いに期待できるという魅力もある.

著者らは日本人ではないため,新種に和名がない. 既知種のリストと合わせて和名の提唱も行っ

ておく.

Hydraena notsui group:

Hydraena notsui Satô, 1978 シコクダルマガムシ (島根県, 鳥取県;四国)

Hydraena chifengi Jäch et Díaz, 1999 メンノキダル マガムシ (愛知県)

Hydraena yoshitomii Jäch et Díaz, 1999 ヨシトミダ ルマガムシ(埼玉県)

*Hydraena curvipes* Jäch et Díaz, 2012 アシマガリダルマガムシ [和名新称] (長野県)

Hydraena hayashii Jäch et Díaz, 2012 クニビキアカ ダルマガムシ [和名新称] (島根県)

Hydraena kamitei Jäch et Díaz, 2012 アカダルマガム シ [和名新称] (岐阜県,栃木県)

Hydraena kitayamai Jäch et Díaz, 2012 ジゴクダニダルマガムシ [和名新称] (大阪府)

Hydraena riparia group:

Hydraena riparia Kugelann, 1794 ホソダルマガムシ (北海道;群馬県、長野県、岐阜県)

Hydraena watanabei Jäch et Satô, 1988 ワタナベダル マガムシ(青森県,宮城県,山形県,山梨県)

Hydraena kadowakii Jäch et Díaz, 2012 ダイセンダ ルマガムシ [和名新称] (鳥取県,岡山県) Hydraena tsushimaensis Jäch et Díaz, 2012 ツシマダ

ルマガムシ[和名新称](対馬)

今回の論文が日本産ダルマガムシ科の解明が進むための起爆剤になることを期待したい.

(林 成多・上手雄貴)